

伝説と歴史の舞台を歩く

お満灯籠

守山市
DATA

- 歩行距離 約6km
- 歩行時間 約2時間



琵琶湖大橋東詰の料金所付近にあるお満灯籠。湖岸の公園整備により昭和60年に移設された。

娘の一途な恋の悲劇を物語る比良八荒

毎年3月下旬、強風で琵琶湖が荒れる自然現象を「比良八荒（講）荒れじまい」と呼ぶ。これは天台宗の法要「比良八講」の時期と重なるためだが、これには悲しい民話が伝わっている。

民話には諸説あるが、その一つの話として、その昔、湖東の鏡村で相撲興行があり、村娘のお満は比良村から来た八荒という美男の力士に一目ぼれをする。村へ帰ろうとする八荒に、お満は恋心を打ち明けるが、男は「100日通いとおしたら嫁にしてもいい」と言う。この言葉を信じ、お満はたらい舟で対岸の白鬚明神の灯明を頼りに毎夜通いつめるが、娘の一途さが恐ろしくなった男は、99日目の夜、白鬚明神の灯明を消



湖国に春の訪れを告げる「比良八講」は、例年3月26日に比良山麓と琵琶湖の湖上で営まれる。打見山で取水した法水を湖面に注ぎ、水難者の供養、琵琶湖の浄水など環境保全を祈願する。この行事は、天台宗の法華八講という大切な法要で、昭和30年に復活した。



なぎさ公園から望む比良山（写真提供：びわこビジネスマジック）

してしまふ。お満は方向を見失い、不運にも強風による大波によつたらたい舟ごと湖に沈んだ。その後、娘の乗ったたらいは蛇体となつて今浜の岸に漂着。村人がこれらを拾い集めて硫黄を作ったことから、毎年、旧暦2月24日には今浜町の樹下神社で硫黄夜祭が行われている。

琵琶湖大橋の東詰には、お満を偲んで建てられた灯籠が佇んでいる。今回はお満ゆかりの樹下神社からお満灯籠を目指して歩いてみた。廃川となった旧野洲川のびわこ地球市民の森、湖岸の美崎公園、なぎさ公園など、春には花や緑とふれあえる快適なルートである。

モデルコース

- 速野小学校前バス停 8分
- びわこ地球市民の森・里の森ゾーン 12分
- 樹下神社 30分
- 美崎公園 20分
- なぎさ公園 20分
- お満灯籠 5分
- 琵琶湖大橋東詰バス停

※JR守山駅から速野小学校前まで近江鉄道バス(木の浜線)で約15分。琵琶湖大橋東詰からJR守山駅までは同バスで30分。
※移動時間はあくまでも目安です。

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな「近江」という舞台を、登場人物のひとりになった気分です歩いてみてはいかがでしょうか。